

趣 意 書

学校法人國學院大學は、明治15年11月4日、その前身である皇典講究所の開校以来、百参拾余年の歴史を閲し今日に至っております。

その開校式において、初代総裁有栖川宮熈仁親王から賜った告諭

「凡学問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ 故ニ国体ヲ講明シテ以テ立国ノ基礎ヲ鞏クシ 徳性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本文ヲ盡スハ百世易フベカラザル典則ナリ而シテ世或ハ此ニ暗シ是レ本学ノ設立ヲ要スル所以ナリ」

の趣旨（日本人として自己のアイデンティティーの確立）が建学の精神の基底をなしています。こうした機運に応えて、大正7年の大学令に基づき、大正9年に國學院大學として認可されました。

このような基本的教育理念の下、現在では、法人組織として國學院大學、同大学院、同専門職大学院（法科大学院）、國學院大學北海道短期大学部、國學院高等学校、國學院大學久我山中学・高等学校、國學院大學附属 幼稚園、國學院幼稚園を設置しております。

本法人では、建学の精神・理念を一層闡明・明確化し、日本が「国際的競争力(主体性)」を保持しつつ国際社会での「協調・共生(寛容性と謙虚さ)の体制」を創出・構築するために、平成14年に「國學院大學21世紀研究教育計画」を策定しました。その後、「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」の調和を研究教育の基本方針に定めた「國學院大學における研究教育開発推進に関する指針」に基づき、平成21年に第二次計画、平成24年に第三次計画を公表、国際社会での協調・共生体制を構築し、学術研究及び教育をとおして日本社会の発展と世界平和に貢献することを目指し、大学院から幼稚園までを擁した文字通りの総合教育機関として、法人を挙げて様々な事業に取り組んでまいりました。

しかしながら、学校法人國學院大學が未来に向けて多くの社会的要請に対応できる教育研究体制を策定し、これをより一層充実・発展させてゆくためには、山積する多くの課題を成し遂げねばならず、必然的に多額の資金が必要となります。

一方、学業に勤しむ学生の中には、学業継続の強い意思を持ちながら、社会情勢故に経済的に苦しい立場におかれている学生が漸増している事実も見過ごすことは出来ません。

本法人は、皇典講究所の創立以来、いかなる困難に遭遇しようと、建学の精神を保持しつつ、これを乗り越え、日本の伝統・文化の継承と創造的発展に努めてまいりました。しかし、経費の節減や業務の合理化等、可能な限りの自助努力を続けておりますものの、国庫からの私学助成が漸減するなど、私学の経営は極めて厳しい状況にあります。

如上の経緯から本法人は私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、学生・生徒等の奨学金、学生・生徒等の活動支援、教育・研究振興支援、施設・設備充実支援について寄付金の募集を行うこととなりました。

皆様方には格段の御理解と御協力をたまわりたく、ここに謹んでお願い申し上げます。

令和元年5月吉日

学校法人 國 學 院 大 學

理事長 佐 柳 正 三